『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産推薦の宗像大社で世界平和を祈願

平成28年11月25日

開会式で挨拶する大会長の葦津敬之宗像大社宮司

講演①葦津敬之宗像大社宮司「宗像と海の歴史」、講演②八幡暁先生「弱さから見えたもの」

プロジェクターを使って講演する葦津宮司

カヤック冒険家 八幡 暁 先生

カヤックで「人間の根元的な感覚を取り戻した」と笑顔で語る八幡さん

昨年11月25日、「海の道から導かれた世界平和への智慧」をテーマに、福岡県宗像市で第38回世界連邦平和促進全国宗教者・信仰者福岡大会が開催され、加盟する諸宗教から約250人が参集した。

午前中に宗像大社で「平和の祈り」を捧げ、祭典では神道、仏教、キリスト教、教派神道、新宗教の代表者が玉串拝礼した。また、神宝館で「世界遺産登録推薦決定記念 宗像・沖ノ島大国宝展」を観覧した。

午後からは玄海ロイヤルホテルに会場を移し、開会式を行い、葦津敬之宗像大社宮司が「宗像と海の歴史」と題して、また、シーカヤック冒険家の八幡暁さんが「弱さから見えたもの」と題して講演した。

葦津宮司は、宗像大社の歴史について紹介し、60キロ沖合いに浮かぶ沖津宮(沖ノ島)、中津宮(大島)、辺津宮の総称が宗像大社で、特に沖ノ島は大和朝廷が大陸との交易の最前線とした島であり、装飾品など最高のものが集められ、その発掘されたものが約8万点の国宝になっている、と説明した。

また、世界遺産登録の推薦決定を受け、海洋環境問題にも取り組むようになり、宗像国際環境会議にも参画して、海の再生事業に取り組んでいる、と話した。

シーカヤックで、オーストラリアから日本までの多島海域を人力航海し、行く島々で海と共に生きる人々とふれあう旅を続けている八幡さんは、シーカヤックの旅で「人間の根元的な感覚を取り戻した」と語った。

「海に出ると、人に教えられるのではなく、自分の体の60兆の細胞レベルで、怖さ、喜びを感じるようになります。今は感じる前に避けることが多くなりましたが、ちゃんと危険と向き合えたら、特に自分は弱く、一人じゃ生きられないということがよくわかります。弱いことを知れば、自然と助け合って生きていくようになるのです。弱さを知っているからこそ、親族、地域がみんな一緒に助け合って暮らす。島々には一人暮らしはなかった」と語り、「人間が弱さを自覚し、海や自然と共存、共生していくこと」の大切さを訴えた。閉会式では大会宣言文(別掲)が採択された。

「平和の祈り」を捧げる各宗教代表

浦安の舞が奉奏された

「平和の祈り」を捧げる宗教者・信仰者

神道

仏教

キリスト教

教派神道

新宗教

祈願殿での「平和の祈り」

《大会宣言》

第38回世界連邦平和促進全国宗教者・信仰者福岡大会が、「海の道から導かれた世界平和への智慧」を大会テーマに、この宗像の地において開催されました。

宗像の人々は、古代に中国大陸や朝鮮半島、東南アジアに通ずる海の道を発見し、以来、厳しい歴史を乗り越えてきました。四方を海に囲まれた日本がどのように隣国との関係を築き、現在の平和をもたらしてきたのかを示してくれました。

現在の世界の海洋情勢を顧みるとき、人類は多くの問題を抱え、その解決の道を模索しています。特に、世界的問題となっている、島々の領有権や公海についても学ぶ必要が生じてきています。

国連海洋法条約第88条では「公海は、平和目的のために利用されるものとする」と記載されています。しかし、この条約の解釈によっては軍事目的で公海を使用することもでき、公海上での核兵器使用も一定の条件に従ってさえいれば、「適法な公海使用」とみなされるのです。法令はそれぞれの都合によって解釈できるという矛盾もはらんでいるのです。この大会を機会に、海に囲まれた日本が世界の国々と海を通じてどのように平和な世界を築いていくのかが問われているようです。

八幡暁(やはたさとる)氏は海を旅しながらさまざまな国を巡り、多くの人々と出会い「一人で生きている人はいない。みなさん共存している」ことを体験されたといいます。

私たち宗教者・信仰者は、神仏への畏敬と感謝の心を受け継いで、一人の人間として共生(ともいき)の精神をもち、平和とは何かを問い続けなければならないと存じます。今回は海を守ることをテーマとした大会でありましたが、この海を守ることが多くの人を守ることになることを自覚し、共に生きていくことを誓い合いましょう。

世界連邦日本宗教委員会 事務局 〒614-8588 京都府八幡市八幡高坊30 石清水八幡宮内 電話 075(981)3001
本部 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-5-10-2F 電話 03(5411)8178